

答え合わせ・解説

問1	答え 2 北東	地形図の読図における原則では、方位記号がない場合は地図の上を北、下を南、右を東、左を西と定めます。北と東の中間に位置する方向は「北東」であり、これは8方位の一つとして地点間の相対的な位置関係を示す際に欠かせない知識です。
問2	答え 3 図の中心から各地点を結ぶ直線が、実際の最短距離（大圏航路）を表している。	正距方位図法は、中心からの距離と方位が正しく示される図法です。そのため、中心から引いた直線はそのまま地球上の最短距離である「大圏航路」となります。ヤクーツクのような近接する都市も、中心からの直線距離を測ることで最短経路を把握できます。ただし、中心以外の二点間の距離や方位は正しく表現されません。
問3	答え 2 赤道直下の低緯度地域にある直線イ	メルカトル図法は角度を正しく表現する図法ですが、高緯度に向かうほど面積や距離が拡大して表現されるという特性があります。高緯度地域では実際の距離よりも引き伸ばされて描かれているため、地図上で同じ長さの線であっても、拡大率が最も小さい赤道付近（低緯度地域）の線の方が、より長い実際の距離を反映していることになります。
問4	答え 1 警察署・交番	地図記号の「×」は、かつて警察官が持ち歩いていた「交差した警棒」をモチーフにしており、警察署や交番を表します。地形図の読解においては、文字による説明がなくても、こうした記号から公共施設の配置を把握することで、地域の特性や都市の機能を分析することが可能になります。
問5	答え 1 アメリカ合衆国は一人当たりの電力消費量が1万2000キロワット時を超えており、生活様式や産業構造の影響で電力消費が非常に多い。	アメリカ合衆国は広大な国土での移動や冷暖房需要、大量消費型のライフスタイルなどを背景に、一人当たりの電力消費量が極めて多いのが特徴です。一方、中国は国全体の電力消費量は膨大ですが、人口も多いため、一人当たりの消費量で見るとアメリカ合衆国の方が高い水準にあります。
問6	答え 2 南アメリカ大陸の南東に位置する、南大西洋の海上	東京の対せき点は、計算すると南緯36度、西経40度付近になります。この地点を世界地図上で確認すると、南アメリカ大陸のブラジルやアルゼンチンの東側に広がる南大西洋上に該当します。北半球にある地点の対せき点は必ず南半球になり、東経140度の反対は西経40度となるため、オーストラリア周辺（東経110～150度付近）や北米東岸（西経60～80度付近）は誤りです。
問7	答え 2 フランス：原子力発電	フランスはエネルギーの自給率向上や二酸化炭素の排出抑制を目的として、国策として原子力発電所の建設を積極的に進めてきました。その結果、2022年時点においても電力供給の6割以上を原子力が担っており、世界的に見ても非常に特徴的な電力構成となっています。一方、ブラジルは水力、中国は火力が中心です。
問8	答え 3 インド洋	世界の海洋のうち、特に面積が広い太平洋、大西洋、インド洋は「三大洋」と呼ばれます。太平洋と大西洋は北極圏から南極圏まで南北に長く伸びていますが、インド洋は北側をユーラシア大陸に塞がれており、その大部分が赤道付近の低緯度から南半球にかけて位置しています。そのため、北極付近を中心とした視点では範囲に含まれません。
問9	答え 1 東京よりも赤道に近い数値であるため、低緯度といえる。	緯度は赤道を0度とするため、北緯・南緯ともに数値が小さいほど赤道に近いことを示します。東京の緯度（約35度）に比べてスバの緯度（約18度）は数値が小さいため、より赤道に近い「低緯度」の地域に該当します。
問10	答え 4 六大陸の中で最大の面積を誇り、地球の陸地の多くが北半球に集まる大きな要因となっている。	この広大な大陸は北半球の北緯10度付近から北極圏まで広がっており、地球全体の陸地分布を大きく北寄りにさせています。面積の大きさだけでなく、世界の人口の多くがこの大陸上に集中しているという点も重要な特徴です。
問11	答え 4 正距方位図法	この図法は中心点からの距離と方位が正確に表現されるため、中心点からの最短経路（大圏航路）を直線で結ぶことができます。そのため、航空図などに広く利用されています。一方で、中心から離れるほど周辺部の形や面積が大きく歪むという特徴があります。
問12	答え 3 高緯度地方ほど面積や距離が拡大して表現されるため、地図上で同じ長さであっても、赤道に近いほど実際の距離は長くなる。	実際の地球において、経線どうしの幅は赤道で最大となり、高緯度ほど狭くなります。しかし、経線を並行に描く地図では、高緯度地方の経線間隔を実際よりも大きく広げて描くことになります。この結果、高緯度地方は地図上で横方向に大きく引き伸ばされるため、地図上の一定の長さ（例えば1cm）に含まれる実際の距離は、赤道付近に比べて高緯度地方の方が短くなります。逆に言えば、赤道付近は地図上の歪みが最も小さいため、同じ1cmでも高緯度より長い実際の距離を表すことになります。
問13	答え 1 2cm	縮尺が1/25,000の地形図では、地図上の1cmが実際の25,000cm（250m）に相当する。実際の距離が500mである場合、 $500 \div 250$ という計算により、地図上の長さは2cmとなる。1/50,000の地形図（1cm＝500m）と混同しやすい点に注意が必要である。
問14	答え 1 南アメリカ大陸	正距方位図法は、中心からの距離と方位が正しく表される図法です。この図法で東京から真東へ直線を引くと、多くの人がイメージしがちな北アメリカ大陸ではなく、太平洋を横断して南アメリカ大陸の北部に到達します。これは地球が球体であるため、平面のメルカトル図法で見慣れた「東」の感覚とは最短コース（大圏航路）が異なることを示しています。